



Nexus ダッシュボードのアップグレード

- [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#)
- [Nexus ダッシュボードのアップグレード \(3 ページ\)](#)

前提条件とガイドライン

既存のNexusダッシュボードクラスタをアップグレードする前に、次の手順を実行します。

- アップグレードに影響する可能性のある動作、ガイドライン、および問題の変更については、ターゲットリリースの[リリースノート](#)を必ずお読みください。

アップグレードプロセスは、すべての Nexus ダッシュボード フォーム ファクタで同じです。ただし、既存のクラスタが物理サーバー、VMware ESX、Linux KVM、Azure、または AWS を使用して展開されている場合は、ターゲットリリースの ISO イメージ (nd-dk9.<version> .iso) アップグレードします。既存のクラスタが Red Hat Enterprise Linux に展開されている場合は、RHEL 固有のイメージ (nd-rhel- .tar)。

- 既存のクラスタで実行するサービスの[リリースノート](#)および[アップグレードガイド](#)を確認し、アップグレードに影響する可能性がある動作、注意事項、問題でサービス固有の変更について対象のリリースで実行を計画するようにしてください。

サービス固有のドキュメントは、次のリンクで見つけることができます。

- [Nexus Dashboard ファブリック コントローラ、リリースノート](#)
 - [Nexus Dashboard ファブリック コントローラ、アップグレードガイド](#)
 - [Nexus Dashboard Insights リリースノート](#)
 - [Nexus Dashboard Insights アップグレードガイド](#)
 - [Nexus Dashboard Orchestrator リリースノート](#)
 - [Nexus Dashboard Orchestrator アップグレードガイド](#)
- 物理的な Nexus Dashboard クラスタをアップグレードしている場合は、ノードにターゲットの Nexus Dashboard リリースでサポートされている最小の CIMC バージョンがあることを確認してください。

サポートされている CIMC バージョンは、ターゲット リリースの [Nexus Dashboard リリース ノート](#) にリストされています。

CIMC アップグレードについては、[Nexus Dashboard ユーザー ガイド](#) の「トラブルシューティング」セクションで詳しく説明されています。

- VMware ESX に展開された仮想 Nexus Dashboard クラスタをアップグレードする場合は、ESX のバージョンがターゲット リリースで引き続きサポートされていることを確認します。

サポートされている ESX バージョンは、VMware 展開の [前提条件とガイドライン](#) セクションに記載されています。



(注) ESX サーバーをアップグレードする必要がある場合は、Nexus Dashboard をターゲット リリースにアップグレードする前に行う必要があります。

1. 既存の Nexus Dashboard ノード VM を実行している場合に通常行うように、ESX ホストの 1 つをアップグレードします。
2. ホストがアップグレードされた後、Nexus Dashboard クラスタが正常に動作していることを確認します。
3. 他の ESX ホストで 1 つずつアップグレードを繰り返します。
4. すべての ESX ホストがアップグレードされ、既存の Nexus Dashboard クラスタが正常な状態になったら、次のセクションの説明に従って、Nexus Dashboard をターゲット リリースにアップグレードします。

- アップグレードを続行する前に、データを保護し、潜在的なリスクを最小限に抑えるために、アップグレードの前に Nexus ダッシュボードとサービスの構成バックアップを実行する必要があります。

- Nexus Dashboard リリース 2.2(1) またはそれ以降を実行して、リリース 3.0(1) に直接アップグレードする必要があります。



(注) 追加のアップグレードパスと最小バージョン要件は、クラスタにインストールした特定のサービスによって異なる場合があります。詳細については、上記にリンクされているサービス固有のリリース ノートとアップグレード ガイドを確認してください。

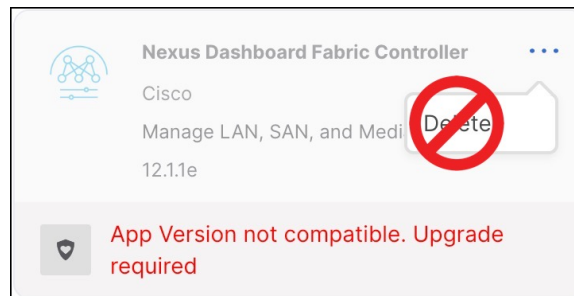
- リリース 3.0(1) 以降にアップグレードする前に、クラスタで実行されているすべてのサービスを無効にする必要があります。



(注) Nexus Dashboard をリリース 3.0(1)以降にアップグレードした後、既存のすべてのサービスを新しいNexus ダッシュボードバージョンと互換性のあるバージョンにアップグレードする必要があります。

サービスをアップグレードするときは、Nexus Dashboard のアップグレード前に無効にした既存のバージョンを再度有効にしないでください。

また、サービスの既存のバージョンを削除すると、互換性のないアプリバージョンが表示される場合があります。アップグレードが必要です。
エラー：



- 有効な DNS および NTP サーバーが構成され、すべてのクラスター ノードから到達可能である必要があります。
- 現在の Nexus ダッシュボード クラスタが正常であることを確認します。

Nexus ダッシュボードの管理コンソール (Admin Console) の [概要 (Overview)] ページでシステムのステータスを確認するか、`rescue-user` としてノードの1つにログインし、`acs health` コマンドを実行して `All components are healthy` が返ってくることを確認します。

- アップグレードが進行中に `worker` または `standby` ノードを追加するなど、構成変更がクラスタに対して行われていないことを確認します。
- Nexus Dashboard ではプラットフォームのダウングレードはサポートされていません。
以前のリリースにダウングレードするには、新しいクラスタを展開してサービスを再インストールする必要があります。

Nexus ダッシュボードのアップグレード

ここでは、既存の Nexus ダッシュボード クラスタをアップグレードする方法について説明します。



- (注) 次の手順は、Nexus Dashboard リリース 2.2.2 からのアップグレードワークフローを示しています。リリース 2.3(x) からアップグレードする場合、UI は若干異なる場合がありますが、アップグレードのワークフローと機能は同じです。

始める前に

- で説明している前提条件をすべて満たしていることを確認します。 [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#)

ステップ 1 Nexus ダッシュボードイメージをダウンロードします。

- a) [ソフトウェア ダウンロード (Software Download)] ページを参照します。

<https://software.cisco.com/download/home/286327743/type/286328258>

- b) ダウンロードする Nexus ダッシュボードのバージョンを選択します。

- c) ターゲットとするリリース用の Cisco Nexus ダッシュボードイメージをダウンロードします。

- (注) • Nexus ダッシュボードが Red Hat Enterprise Linux に展開されている場合は、.tar イメージ (nd-rhel-`<version>` .tar) を使用してアップグレードを実行します。

RHEL の展開の詳細については、[既存の Red Hat Enterprise Linux インストールでの展開](#)を参照してください。

- 他のすべてのフォームファクターについては、.iso イメージ (nd-dk9.<version>.iso) を使用してアップグレードを実行します。

たとえば、最初の展開で仮想フォームファクターを使用していた場合 (VMware ESX での展開のための .ova イメージなど)、またはクラウドプロバイダーのマーケットプレースを使用していた場合であっても、アップグレードでは .iso イメージを使用する必要があります。

- d) (オプション) 環境内の Web サーバでイメージをホストします。

イメージを Nexus ダッシュボード クラスタにアップロードする場合、イメージに直接 URL を指定するオプションがあります。

ステップ 2 現在の Nexus Dashboard GUI に管理者ユーザーとしてログインして、**管理コンソール**に移動します。

ステップ 3 クラスタにインストールされている既存のサービスを無効にします。

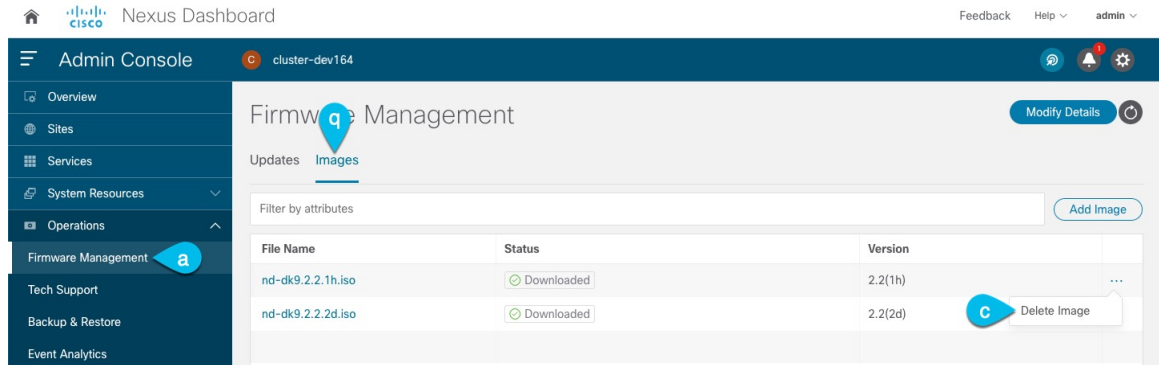
- (注) クラスタのアップグレードをする前にすべてのサービスを無効化する必要があります。

- a) メインナビゲーションメニューから [サービス (Services)] を選択します。
b) サービスのタイルで、[アクション] (...) メニューをクリックし、[無効化] を選択します。
c) クラスタに展開されている他のすべてのサービスについて、この手順を繰り返します。

ステップ 4 クラスタから既存のアップグレードイメージを削除します。

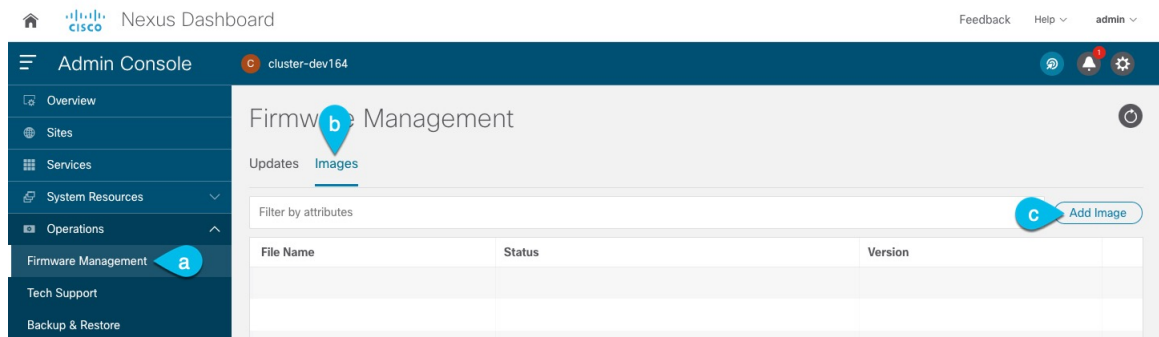
クラスタを初めてアップグレードする場合は、この手順をスキップできます。

以前にクラスタを現在のバージョンにアップグレードしたことがある場合は、以前のアップグレードイメージをすべて削除する必要があります。



- [Operations (オペレーション)] > [ファームウェア管理 (Firmware Management)] に移動します。
- [イメージ] タブを選択します。
- 既存のアップグレードイメージの横にあるアクションメニュー (...) から、[イメージの削除 (Delete Image)] を選択します。
- すべての既存のアップグレードイメージについて、この手順を繰り返します。

ステップ 5 新しいイメージをクラスタにアップロードします。



- [Operations (オペレーション)] > [ファームウェア管理 (Firmware Management)] に移動します。
- [イメージ] タブを選択します。
- [Add Image] をクリックします。

ステップ 6 新しいイメージを選択します。

- [ファームウェア イメージの追加 (Add Firmware Image)] ウィンドウで、[ローカル (Local)] を選択します。
 または、ウェブサーバでイメージをホストした場合は、代わりに [リモート (Remote)] を選択します。
- [ファイルの選択 (Select file)] をクリックし、最初の手順でダウンロードした .iso または .tar イメージを選択します。

RHEL での展開の場合、.tar ファイルを使用してアップグレードします。他のすべての展開ファクターの場合、.iso ファイルを使用します。

リモートイメージのアップロードを選択した場合は、リモートサーバ上のイメージのファイルパスを指定します。

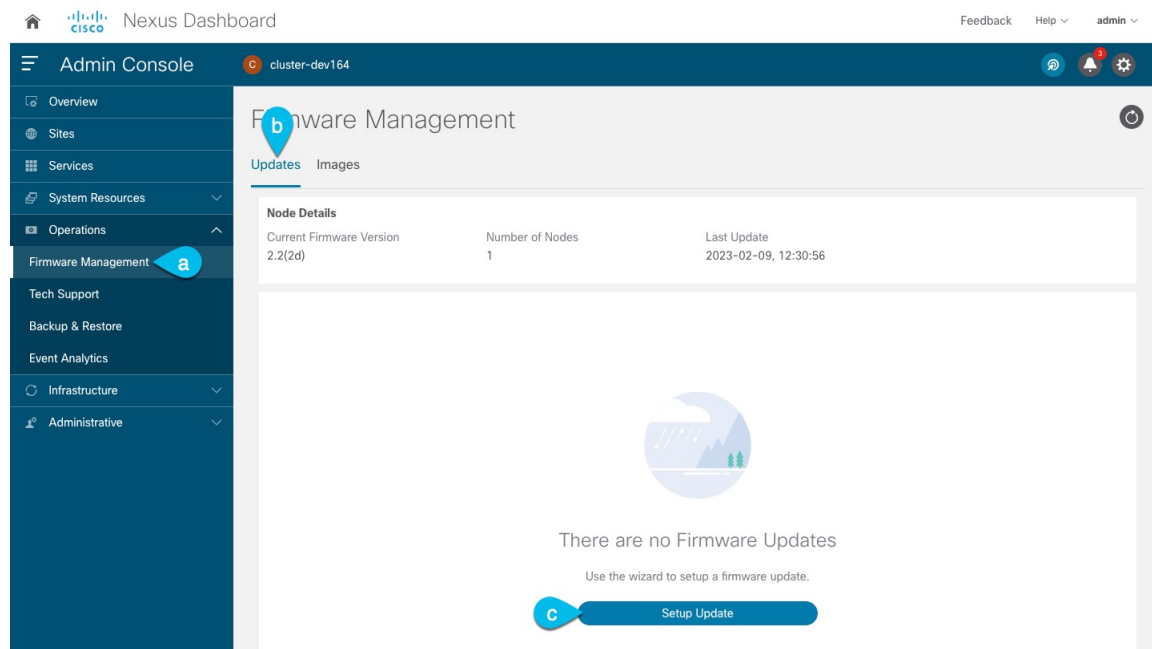
- c) **[アップロード (Upload)]** をクリックして、イメージを追加します。

イメージが Nexus ダッシュボード クラスタにアップロードされ、解凍されて処理され、アップグレードに使用できるようになります。プロセス全体に数分かかる場合があります、**[イメージ (Images)]** タブでプロセスのステータスを確認できます。

ステップ 7 イメージステータスが「ダウンロード済み」に変わるのを待ちます。

イメージでイメージのダウンロードの進行状況を確認できます。

ステップ 8 更新を設定します。



- a) **[Operations (オペレーション)]** > **[ファームウェア管理 (Firmware Management)]** に移動します。
 b) **[更新]** タブを選択します。
 c) **[更新の設定 (Set Up Update)]** をクリックします。

(注) 以前にクラスタをアップグレードしたことがある場合、ページには代わりに以前のアップグレードの詳細が表示されます。その場合は、ページの右上にある **[詳細の変更 (Modify Details)]** ボタンをクリックして、新しいアップグレード情報を提供します。

[ファームウェアの更新 (Update Firmware)] ダイアログボックスが開きます。

ステップ 9 アップグレードを開始します。

- a) [ファームウェアの更新 (Firmware Update)] > [バージョン選択 (Version selection)] 画面で、アップロードしたファームウェア バージョンを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- b) [ファームウェアの更新 (Firmware Update)] > [確認 (Confirmation)] 画面で、詳細を確認し、[検証 (Validate)] をクリックします。

セットアップは、アップグレードを確実に成功させるために、いくつかの準備段階と検証段階を経ます。終了するまでに数分かかる場合があります。

- c) 検証が完了したら、[インストール (Install)] をクリックします。

インストールの進行状況ウィンドウが表示されます。更新中は、この画面から移動できます。後で更新ステータスを確認するには、[ファームウェア管理 (Firmware Management)] 画面に移動し、[最終更新ステータス (Last Update Status)] タイルで [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。

これにより、必要な Kubernetes イメージとサービスが設定されますが、クラスタは新しいバージョンに切り替わりません。次の手順で新しいイメージをアクティブ化するまで、クラスタは既存のバージョンを実行し続けます。このステップは、最大で 20 分程度かかる場合があります。

ステップ 10 新しい画像をアクティブにします。

アップグレード画面から移動したことがない場合は、[アクティブ化 (Activate)] をクリックして新しいイメージをアクティブにします。

そうでない場合は、次のようになります。

- a) [オペレーション (Operations)] > [ファームウェア管理 (Firmware Management)] 画面に戻ります。
- b) [最終更新ステータス (Last Update Status)] タイルで、[続行 (Continue)] をクリックします。

一部の以前の Nexus ダッシュボード バージョンでは、このリンクは代わりに [詳細の表示 (View Details)] と呼ばれる場合があります。

- c) [ファームウェア アップデート (Firmware Update)] の > [インストール (Install)] 画面で、[アクティブ化 (Activate)] をクリックします。

すべてのクラスタサービスが起動し、GUI が使用可能になるまでに、さらに最大 20 分かかる場合があります。このページは、プロセスが完了すると、自動的に再ロードされます。

ステップ 11 クラスタに展開されている個々のサービスをアップグレードします。

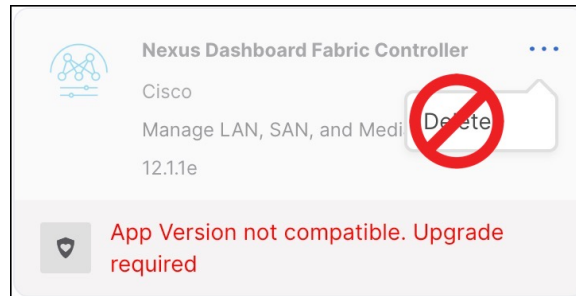
アップグレードするサービスに固有のアップグレードガイドを必ず読んでください。

- [Nexus Dashboard ファブリック コントローラ、アップグレードガイド](#)
- [Nexus Dashboard Insights アップグレードガイド](#)
- [Nexus Dashboard Orchestrator アップグレードガイド](#)

(注) Nexus ダッシュボードをリリース 3.0(1)以降にアップグレードした後、既存のすべてのサービスを新しい Nexus ダッシュボード バージョンと互換性のあるバージョンにアップグレードする必要があります。

サービスをアップグレードするときは、Nexus ダッシュボードのアップグレード前に無効にした既存のバージョンを再度有効にしないでください。

また、サービスの既存のバージョンを削除すると、互換性のない アプリ バージョンが表示される場合があります。アップグレードが必要です。エラー：



ステップ 12 (オプション) 新しい UCS-C225-M6 ハードウェアに移行します。

(注) Nexus ダッシュボード ノードを新しい UCS-C225-M6 サーバーに置き換える予定がない場合は、この手順をスキップできます。

UCS-C220-M5 ハードウェアを使用して展開された既存の Nexus ダッシュボード クラスタを移行するには、新しい UCS-C225-M6 ノードを *standby* ノードとして既存のクラスタに追加し、古いノードの 1 つをフェイルオーバーするだけです。次に、古いクラスタの残りのノードについて、一度に 1 ノードずつプロセスを繰り返します。*standby* ノードの追加と使用については、[Nexus Dashboard ユーザーガイド](#)の「インフラストラクチャ管理」の章で詳しく説明されています。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。